

第4回 みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会 議事録

○日 時 令和6年5月21日（火） 午後7時00分～午後8時30分

○場 所 みどり市役所 教育庁舎 3階 第1会議室

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会委員】14名

委員長	田口 和人
副委員長	清田 敏治
委員	鈴木 孝明
委員	新井 博介
委員	近藤 博一
委員	備海 忍
委員	春山 寛之
委員	富所 哲平
委員	村田 紀子
委員	須田 敏之
委員	黒澤 寿一
委員	大澤 智
委員	高草木 良江
委員	穴倉 淳一

【みどり市教育委員会】 8名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
教育部	部長	金高 吉宏
教育総務課	課長	石坂 克広
学校教育課	課長	神山 亮一
学校教育課	課長補佐兼指導係長	小暮 真美
教育総務課施設係	係長	大窪 進
学校教育課教職員係	管理主事	日置 潤

【欠席者】 教育総務課 課長補佐 長澤 伊知郎

【報道機関】 桐生タイムス社

【傍聴者】 なし

○議事の概要

1 開 会 [開始：午後7時00分]

進行：副委員長 清田 敏治

2 委員長あいさつ

・委員長 田口 和人

皆様、こんばんは。昨年度3回の会議を開き、今日は第4回目という形になります。本日は、学校適正規模・適正配置の基本的な考え方についてまとめるという位置付けの会議になっておりますので、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

本日の委員会の終了時間は、20時30分を目安にしたいと考えておりますので、委員の皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、皆様よろしくお願いいたします。

3 協議事項

(1) 学校適正規模・適正配置の基本的な考え方について

- ・資料1～3及び別添資料1～3について事務局から説明
- ・委員意見交換
- ・協議についての意見や質疑応答は、以下のとおり。

(1) 学校適正規模・適正配置の基本的な考え方について	
発言者	発 言 内 容
議長（委員長）	事務局から説明をしていただきましたが、一遍に協議して規模と配置がごちゃごちゃになるのは避けたいと思いますので、規模の方についての話を先にして、その後、配置の方の議論というようにしたいと思います。 規模の問題につきましては、5月の9日に大間々南小学校の視察を実施したという事を聞いております。私は都合がつかず、参加できなかったのですが、小規模校となっている大間々南小の1学年1学級という学校の様子はどうかということを見ていただくという趣旨でした。 当日ご参加された皆さんの中でご意見、ご感想などがあればお願いします。いかがでしょうか。
委員1	大間々南小学校は1年生から6年生まで大体20人程度のクラスでした。最初は、1学級に30人ぐらいの方がよいのではないかと考えていたのですが、20人のクラスだと先生が児童の机の間に割って入って、児童一人一人指導を細やかに見られるという状況がありました。 逆にクラスに30人いると、先生は多分、前の方にしかなくて後ろの方

	まで回って来られないのかなと感じました。 1 学級の人数は20人ぐらいが適正なのではないかと感じました。
委員2	丁度タブレットを使った教育をしているクラスがありました。児童は、自分で決めたテーマに応じて学習を進めていくという授業でしたが、それぞれ全く違う内容だったり、先生から児童の手元が見えなかったりするので、通常の「読む」「書く」という授業より、タブレットを使った授業は先生にとって教えるのがとても難しいと感じました。 現在、群馬県では1 学級の人数が35人という形になっていますが、とてもじゃないですけども、35人という人数を先生が教えるのは、今後無理になっていくのではないかと感じました。通常の学習に関しては、ある程度先生方の経験から問題は無いと思いますが、まだ不慣れなタブレット学習では少し苦勞が生まれるのではないかと思います。 やはり、少人数の20数名というのが望ましいのではないかと感じたところです。
委員3	大体今のご意見と一緒にですが、私も20人というとな少ないのかなと思っておりましたが、児童生徒の配置などを考えると、あのくらいがいいのかなと思いました。ただ、逆に人数が多い学校がどうなのかと疑問に思ったところもありました。
委員4	大間々の小学校は以前から小規模でしたが、小規模の良さを生かしながらやってきました。みどり市は、他の市町村よりも教育に関してあらゆる面で手厚いと思います。小規模校にも対応できるようなシステムを取っています。特別支援にも手厚く対応しておりますし、少人数の良さを活かすような教育をしている市町村ではないかと思います。
委員5	大間々南小は私の母校ですので、当日は楽しみに参加しました。私の娘が在籍していた頃から1 学年1 学級でしたので、その規模での様子をずっと見てきたため、娘が育った環境を考えると本当に手厚く一人一人の児童生徒をケアしていただいたという実感があります。 さらに今は20人規模ですから、より手厚くなっていると本当に感じており、保護者としてはこの規模で良かったという声が大半です。 逆に1 クラス35人で何クラスもあるという環境を知らないというのが大間々の保護者や子供たちなのかもしれません。
議長（委員長）	ありがとうございました。ご発言いただいた内容と1 学年1 学級という形や学級の人数が20人ちょっとという規模は決して悪くないというご意見だ

	ったと思います。基本的な考え方としては、1 学年 1 学級以上を標準とすることが望ましいという部分は、イメージしやすかったのかなと思いました。 ただ、実際に答申作成に至る場合に、1 学年 1 学級以上を「標準」とするのか「基準」とするのかということについては、言葉の使い方になってきますが、答申を作成するにあたっては検討するべき部分だと思います。
委員 6	私も当日参加しましたが、今のポジティブなご意見は1クラスの人数が少ないというのがメリットとされています。1 学年の学級数とは若干ずれている気がします。1 学級の人数が20人ぐらいがよいという話と1 学年が1 学級がよいというのは、少し違うと思います。 1 学級の人数については、文科省や県の決まりもあると思うので、そこも踏まえてもう少しお話しいただいた方がよいのではないのでしょうか。
議長（委員長）	それは、1 学年を20人というところが適正だと非常によいというイメージの場合で、1 学年20人が2学級できるという場合もあり得るのではないかとのお話ですね。
委員2	1クラスあたりの絶対数と何学級が望ましいかということはリンクしていないということです。 1 学級がよいという結論になったところですが、20人であろうが30人であろうが1 学級ですよねということになってしまうと思うので、今の話を織り交ぜるのであれば、答申としては、1 学年1 学級で、1 学級あたりの人数は何人が適切という形の方が、皆さんの意見を反映できるかと思います。 もちろん、群馬県基準の人数もあり、教職員の配置の問題もあるので、20数名とした場合、教員をそこに充てられるのかと言えば、多分充てられないという問題が出てきてしまうとは思いますが、この辺を統合すると今の議論の答えになるのかなという感じがします。
議長（委員長）	学級数プラス児童数をリンクさせながらという形ですね。そういう方向が1つの確認点でしょうか。適正規模としては、1 学年 1 学級で20数名を適正とするというような考え方ですね。
委員4	今、小学校1 年生は1 学級30人という基準です。この基準の場合、31人いれば1 クラスの人数は15人と16人となります。国の方針でも県の方針でも1 年生では、15人と16人は適正の範囲なのです。 しかし、20人を基準としてしまうと20人を超えた場合、1 学級の人数は11人と12人や11人と10人になってしまう。11人や12人だと逆にちょっと少ないと思います。答申として、人数を絞ってしまうと厳しいのではないで

	しょうか。
議長（委員長）	事務局の方で、その辺の群馬県ルールなどで見た場合には、1 学年 1 学級というところに、人数をリンクさせるという部分ではどのような感じでしょうか。
学校教育課長	今の話ですと20人台というのは、結構いいよねという話だと思うので、もし加えるとすれば、1 学年 1 学級以上という基準で、1クラスの人数は20人台が好ましいというような書き方はできるかなと思います。けれども、現状現であっても、1 学年1学級以上ということですので、2学級、3学級あっても構わないということです。これは、表現の仕方の問題になりますが、このままでいって、附則として20人台が好ましいというようなことを入れておくというのはよいのではないかと感じています。
議長（委員長）	1 学年1学級以上というような理解を持って、そのあたりを網羅するという形ですね。
学校教育課長	先ほど「基準」とか「標準」という話がありましたけれども、基準とか標準という言葉が入っているから紛らわしいのであれば、そこを除いてしまって「1 学年 1 学級以上とすることが望ましい」とするのも良いかと思います。
議長（委員長）	いかがでしょうか。今の方向性で規模については考えるということで、ご異論はないでしょうか。 それでは、規模についてはその方向で考えることにしたいと思います。 次に、検討開始の時期について検討したいと思います。事務局にお伺いしたいのは、検討開始の時期について3年遡った年度というのは、1つの目安というお話だったでしょうか。
事務局	検討委員会を立ち上げ、協議の上、適正化の準備をするとなると最低3年はかかるだろうということで3年を案としてありますが、例えば、合併にあたり校舎を改築整備する期間も含めると、もっと早い方がよいのではないかという考えもありますので、委員の皆様のご意見をいただければと思います。
議長（委員長）	課題の最小化、よさを最大化する工夫の例もありますが、多岐に渡って創意工夫をしていくということになるかと思います。 では、規模についてはこのような方向で考えていく形で進めたいと思います。 続いて、今日のメインになる部分は「適正配置」の方になります。こち

	らにつきまして、皆さんからご意見やご質問をいただければ有り難いのですが、いかがでしょうか。
委員8	この地区の配置だけを見ると分かりませんが、実際には9区の子供たちが笠懸小学校を隣に見て通り過ぎながら、笠懸西小学校へ通っているという現実があります。それから、国道50号線を渡るということもあります。また、現在問題になっているのは信号機の配置で、今まで笠懸小学校に行くために作ってあった信号機の配置なので、それを警察と話し合っ、笠懸西小学校に行くための道に変えているというのが現実です。子供たちの動線を見るとそういうことが現実起こっているわけで、その動線の整備が未完成です。学校適正配置を考える時に、そのようなこともあるということにも留意する必要があると思います。 それから、私は笠懸8区の区長なのですが、笠懸北小学校に行く児童と笠懸西小学校に行く児童に別れています。そのため、今年、自主防災会というものを作ったのですが、その自主防災会の時にも、子供たちがどちらに行くかというので、やっぱり自分が通っている学校に避難するという傾向であるから、その組織を全部2倍作りました。そのような動きがあるということも配置については考える必要があるかなと思います。 だから、単純に小学校を下に下げて学校の配置が整うということだけではなくて、9区の人たちがどういう風に動くかということを考え、動線が変わるとどういう風になるのかということも合わせて考えていくことが必要です。人の動きが変わると信号機の位置が変わる、今まで危険でなかった所が危険に変わる、変わりうるという見方もあるということを頭の中に入れておいていただければと思います。
委員9	今の意見に付け足しですが、実は私はその笠懸9区に住んでおりまして、子供の動線によって通る道が変わってそれも加味しながら考えた方がいいということで、具体的には、何年先になるか分かりませんが、新しい50号バイパスができます。自動車学校の辺りから、笠小の辺りまでドーンとできたり、さらには、国道50号線沿いに「いっちょ」いう飲食店がありますが、その辺りから笠西小に向かって道ができたりするということです。 通学路としては距離はもちろん大事ですが、より安全な道を通したいという保護者の意見もあるため、そういったことを加味する必要があると今お話を聞いて思いました。将来、確実に50号バイパスはできるし、そういう新しい生活道路ができるということも加味しながら考えていった方がよいと

	思った次第です。
議長（委員長）	この通学の問題は、確かに難しいですね。安全性の確保というのは。特に、国道50号を渡らせたくないというのはありますよね。それは避けて、50号のこっち側と向こう側に分かれてというような考え方は当然出てくるだろうし、そこをうまく見ていくとよいという話ですね。
委員2	統廃合も義務教育学校もいずれこうなるしかないのかなってというのが、今の人口推計で分かるところではありますが、いずれにせよ、学校が1校、2校になった時に、学校としては適正配置かもしれないが、大間々地区としての過疎化がさらに進む配置になってしまうのではないかとということが懸念されます。どうしても、小さいお子さんがいる親御さんが、移住定住するようになった時に、やはり最初は小学校の近くがよいとか、学校に通いやすいところがよいとか、今、丁度議論している問題を避けようとして住まれると思うのですが、本日出していただいた資料のような配置になると、町としての衰退が進んで、児童数減少を促す要因にもなり得るのではないかと感じます。 ただ、代替案はあるかと言われると、難しいです。
委員11	逆にめちゃくちゃ良い学校を作る方が大切なのではないのでしょうか。
委員4	私はやはり小学校は残した方がよいと思います。地域に2校くらいは欲しい。中学校は生徒指導や部活動、教科指導等を考えると1校でもよいと思います。大間々町の理想は、中学校1校、小学校2校だと考えています。 小規模校のよさを活かした小学校が2校あれば切磋琢磨できる。 また、小学校には小学校のよさ、中学校には中学校のよさがあり、義務教育学校はすべてよいとは思いません。 今、ご意見があったように、義務教育学校2校とした場合、過疎化が進んでしまう恐れがあります。 中学校は、今のままでは駄目だろうと思います。
委員8	参考までにお話します。私が中学校のときは、大間々中学校は現在の大間々南小学校のところにありました。それが昔の大間々では最高のバランスだったわけです。 今、人口が多い中で大間々東中学校の方が中心だと捉えやすいかもしれませんが、距離的には大間々南小学校のところにあった大間々中学校の方が、大間町としてはすごくバランスが取れていた自然な形態だと思います。 その自然な形態が、人数が増えたために大間々東中学校を作り、中学校を2つに分離させてので、現在があるわけですね。

	だから、だんだん考え合わせていく時に、昔はどうだったのだろうかということ頭の中に入れておくといいかもしれないですね。これもまた子供の動線が全く変わって、今の大間々南小学校のところが大間々中学校になるとしたら、大間々東からこちらに来るという動線になるわけですね。それもまた考え、人口比も考えて進めていく。 それから、太田なら太田の学校で、近くの子供たちがいる学校というか住んでいる場所から適当な距離にある学校に通ってくるわけですが、遠方の場合にはバスが出ていて、きちんとそのバスで連れてくるということがあるので、位置関係をそれほど捉える必要がなくて、むしろ中学校1校、小学校2校を維持するというような形の方が子供たちにとっては幸せかもしれないと思います。
事務局	誤解がないようにご説明いたします。本日の資料に挙げたものはあくまでもいろいろな考えの1つの例としてお考えください。今、委員の皆さんからご意見があったように、昔良かったバランスに戻すというのも、もちろんあると思います。そういうことができるように、基本的な考え方として、通学距離はどのくらいがよいだろう、時間はこのくらいがよいだろう、そしてその移転や改修に合わせて学校区を見直すことがいいだろうなど、大枠を決められればよいと思います。実際にそこをどうしていくかっていうのは、地区委員会の検討内容だと思いますが、折角の機会ですので、色々ご意見を聞かせていただきたいと思います。
委員 2	私は去年の3月にみどり市に来たので、おそらく皆さんほど、正直言うとこの地区にめちゃくちゃ愛着があるというわけじゃないと自分の中では感じています。その中で、今、地域おこし協力隊として移住とか定住の担当をしております、色々考えていくと地域に学校がなくなると多分人がいなくなるのではないのでしょうか。 今、私が住んでいるのは大間々の浅原地区なのですが、今も飛び出し注意マークがあって、子供がたくさんいたのが分かる標語のようなものが書いてあるのです。そういう時期があったけれど、やっぱり学校がなくなると、一気にその世代はいなくなって、高齢者の方ばかりになると思うんですね。 ただ、長野などで教育留学とかでその魅力で移住してきたりする人もいたりするように、教育がその地区の人口を減らすこともできるし、増やすこともできると思います。

	今回、この委員会というのは、その適正規模とか適正配置ということを考えているわけですが、それは正直に言うと時間稼ぎのような感じがします。それと同時に、根本的に市の教育を良いものにしていけば、その教育に惹かれてくる人たちというのはいると思うので、そういうことが今回の【資料2】の答申項目「5 その他」魅力ある学校作りなどに関係してくると思います。 あともう1つ言いたいのは、日本全体の人口が減っていく中で、市の政策としてはわからないですけども、コンパクトシティじゃないけど、バラバラに住んでいると、将来やっぱりインフラの維持とかそういうことを考えるとどうなのかという意見も当然あると思うんですよね。だから、それを左右するのも教育だと思っていて、その辺が今回の議題ではないんですが、その辺も踏まえて色々今後の教育政策っていうのをやっていく必要があるんじゃないかなっていうのは感じています。
委員10	大間々南小は以前も言ったように、中学へ行く時には大間々中と大間々東中に行くため、中学1年生のギャップがあり、そこでいつもかわいそうな思いをしている子供たちがいるので、それはなんとかしてあげたいというのがあります。 大間々全体の活性化を考える場合、赤城駅は東京から2時間弱で来られるため、赤城駅から徒歩10分ぐらいの大間々南小の区域というのは、すごく魅力があるのではないかと考えています。そういう部分では、あの地域は大間々の活性化にも、繋がるのではないかと考えていますが、まずは大間々南小の部分を考えてあげることが、子供たちにとってよいのではないかと思います。
議長（委員長）	要するに、適正配置問題は義務教育学校とセットあるいはリンクして描いた絵になってしまうのは形式的すぎるのではないかというご意見かと思います。 配置を笠懸と大間々で見ると大間々の方は、今申し上げたように、現在の小学校区は学校の配置としては距離的にバランスがよいわけですね。 それで、中学校も配置がよいということ。 だから、これはこのまま生かしていったって人数がさらに減ってしまった場合には義務教育学校などを検討していく。一方、笠懸の方は少し複雑です。
委員7	やはり大間々の過疎化もう避けられないわけですが、小学校は地域との関わりが深いのです。中学校も地域とのつながりをもつけれども高校進学が

	どうしても頭にあるから、親も塾に生かしてとにかくいい学力つけていい高校へというような意識を持ってしまうから、学力をつけたいという意識がどうしても出てくる。そこに対して小学校は、それよりも地域で育まれるというところがすごくあるから、地域との連携とか、民生委員や工場ですとか、いろいろな人たちと関わりながら育まれています。 福岡中央小、神梅小、福岡西小の例を取っても、地域で家庭を、家庭で地域を守るなどと言いますが、学校が無くなるとやはり地域との関わりは無くなってしまう。義務教育学校では、地域の小学校という意識が無くなってくると思うのでは、小学校を残せば地域は応援する人たちがたくさんいるから、それは1つの特色になるのではないかと思います。
委員8	コミュニティスクールという考え方をみどり市ではすごく大事にしている、学校だけではいろいろな限界があるので、地域の人たちみんなで学校そのものを支えていこうという感じだと思いますが、配置も規模もコミュニティスクールであれば、交通インフラも踏まえた上で考えられます。 そもそも、地域コミュニティですよ。どんな施設をどういう風に利用して、どのように統制していくかということも含めて、学校というものを再定義していけると、残るべき学校を残るべき規模で残すことは可能なのではないかと思います。 それから、人の流れに合わせながら考えていくことができるのではないかと思いますので、「適正規模、適正配置の基本的な考え方」の中にコミュニティスクール的な言葉を入れるか、概念みたいなものをもう少し加えた方が、答申する際に地域の検討会での逃げ道にもなるし、こちら側の示すビジョンを伝えることにもなるのではないかなとは個人的に思っています。 ただ、今のままだとコミュニティスクールが目的になってしまうかもしれないので、人口減少社会に対応する新しい学校を考えるための手段としてコミュニティスクールというのをより明確にするために、答申にも言葉が出てくるとよいのかなと思いながら、資料3を読ませていただいていた。小規模校の良さを生かす方策のところで、地域の自然、文化、産業資源等を活かした特別なカリキュラム編成とか、地域との密接なつながりを生かした校外学習とか体験活動とか、これは、要するにもうコミュニティスクールだと思うので、その辺のところが、言葉できちんと出てきているとビジョンが示されるのかなと思います。
委員4	そういった意味では、小学校の方がその存在意義があると思います。一

	貫校ですと中学生までいるわけなので、地域に降りるのが弱くなると思います。どうしても中学生を踏まえた教育になるわけなので。
委員2	話を聞いていて、大間々地区について思ったのは、適正配置だけを見た場合に関しては、現在の3小学校、2中学校というのが適正だと皆さん思っていると思います。つまり、現状のところは今は最適であり、是正する必要は無いということ。 ただし、人工レーションによって再度検討が必要になってくるし、大間々地区においてはそれが見受けられるため、検討開始時期は「3年遡った年度」というところをもう少し深く話し合っ、それが5年遡るのかというところに水準を当てた方がよいのではないかと思います。 また、皆様の意見からすると、統廃合や義務教育学校というのは、望まれてないというより、不適正であるという風にどうしても聞こえるので、今のまを維持しつつ、今後の焦点を合わせていくというのが大間々地区の考え方。反対に、笠懸地区に関しては、もっとインフラ的な部分の問題と、あとは学区の問題などが色々あるので、何回もこの議論に行き着いてしまうのですが、統一の答えは難しいです。 答申を出すのであれば、笠懸地区に関しては配置転換が望ましいですし、大間町地区は現状維持が望ましいというのが、今皆さんが言われてるまとめどころなのかなって感じですね。
議長（委員長）	笠懸、大間々、それぞれの特徴を踏まえながら配置の考え方が出ている訳ですがいかがでしょうか。 事務局から基本的な考え方が示されていますが、大間々地区を現状のまま、現在の3つの小学校、2つの中学校というところを見た時には、この基本的な考え方は十分適用できるような内容にはなっていますね。
委員10	児童数の推計を見ると、大間々南小と大間々北小については、今現在は適正かもしれないけど、5年先を考えた時には手を打たなくてはならないと思います。そのために適正委員会で考えるのではないかと思います。
委員11	令和11年、令和12年でもまだ1学年1学級は維持できますよね。だから、「3年遡る」でもまだ全然余裕をもって構えていられるくらいではないでしょうか。
委員2	そういった具体的な話というのは、本委員会ではなく、地区別の委員会で話した方がよいと思います。みどり市というくくりでの答申が難しいところではありますが、望むとするのであれば、地区別の委員会の早期設置を望

	むという方が皆さんのご意見からするとよいと考えます。 地区別の委員会での検討を早めに進めて、特に大間々地区においては、危機感を持って他地区と並行してやるのではなく、先駆けてできないものかという検討もありだと思います。
委員11	その地区別の委員会については、適正規模・適正配置の地区別委員会ということに、やはりどうしても気持ちは規模と配置を考える方に傾くと思うので、「学校の未来を考える」くらいのふわっとした委員会としておけば、このようなアナウンスが出ない可能性はあるというか、今の状況をどう維持するかで、地域コミュニティを作っていこうという方に考えが動くかもしれないし、そうすると学校は残せるのではないかと思います。 自分がその適正規模・適正配置の地区委員になったら、やはり今後どうにかしていかなければならないという危機感に煽られて（合併などを）提案してしまいそうです。だから、もっとふわっとしていればよいのかなと思います。
議長（委員長）	今日の【別添資料1】をご覧くださいませ。 これから当委員会の6回までがあって、その後に地区別検討委員会が立ち上がってくるというスケジュールがあります。その地区別に行く前に、みどり市全体の適正規模と適正配置の大枠、柱や軸のようなものを出しつつ、その中に、今ふんわりという表現をいただきましたが、実際の教育の中身みたいなもの、コミュニティスクール的なイメージなものを踏み込んだ形で答申に入れていくという形になるかと思います。 その個別具体的なところの返答っていうのは、やはり地区別のところに行った時に、その議論を縛るようなものではなく、広がりを持たせるとよいのではないのでしょうか。 実情に違いのある3つ町のその「違い」というものはこの当委員会としても十分に認識しながらも、それは個別の検討に任せて、より拡大して中身を深めてもらうというようなものをこの答申として作れたらいいのではないかなというイメージでありますね。
委員8	そのイメージとしては基本ラインを作るということですね。次の地区委員会がこの基本ラインに沿って話を進めるというための基本的な考え方を今回作るということですね。 そうすると、この【資料3】の中にある適正規模・適正配置の基本的な考え方と、その下のグレーの色がついている括弧1、括弧2というこの部分の

	文面が基本的な答申の形になるわけですね。 内容的に見ると、先ほどの検討開始時期を3年なり、5年なりにするところを少し検討すると、大体ほぼ出来上がっているような気がします。あとは文面を細かく見て、その次の各地区における検討委員会に回すだけの資料にはすでになっているのではないかなというように私は思います。 例えば、適正配置の中の括弧1に「当該地域の地理的特性、歴史的背景、跡地の利用を含めた」というところでは、ここまで考えているという風になっているので、もう言うことはないなと思いました。 あとは、そのあとの具体的な話になった時には、大切な話というのはもっとあると思います。だから、基本的なラインはかなり出来上がっていて、これであと本当に文面、細かい語句の修正程度でいけるのかなという風には思いました。 あと、参考資料にあるような具体的な検討については次の地区委員会に譲って、むしろ先ほど言われた検討委員会の方を早く作り、検討を始めた方が利口じゃないかなと思います。 先ほど新井先生からお聞きしましたが、小学校というのは地区にとっても結びつきやすいですね。中学校というのは地区に結びつくよりも、対外的なこと、あるいは将来のことを考えるということを考慮すると大間々町の学校の配置として小学校2校、中学校1校という考え方なんかをもっとこう見つめなきゃいけないわけで、また、大間々町の北の方の文化と南の方の文化とか、いろいろな文化がある中で、何をしていくかというのは、この地区検討委員会の方に委ねていいのではないかな。ここで基本ラインはこういうラインですよという基本ラインはもうかなりできていて、内容は、もう良くまとめられているというように私は思います。
議長（委員長）	【資料3】の学校規模については、答申に反映させる内容としてよいか、配置についてもこの考え方というものを答申の中に反映させていくということとでいいのだろうかというところが本日のポイントになります。 答申の内容としては、かなりアバウトなものになりますよね。アバウトな柱立てとなるもの。この委員会で答申を出した上で、その後でまた教育委員会の方での基本方針が策定されて、そして個別な地区別の検討委員会が立ち上がってそこで議論されていくというような流れになっています。 私は個人的に思っているのですが、この規模と配置についての基本的な考え方があって、答申の中には、各地域の特徴のようなものをやはり反映さ

	せて、そこである程度の方向性のようなもの語られるという形が良いのではないか、そういうようなイメージが立つのではないかと思います。 みどり市全体をくくるわけですが、3つの地域のその特徴というものはこの委員会での答申でもやはりきちんと示した上でやるという形ではないかということです。 今日のところは、適正規模・適正配置について、【資料3】にあります基本的な考え方のところの方向性についての確認は取りたいと思います。 よろしいでしょうか。では、今日の会議の到達点として、まとめはこのようにしたいと思います。 会議の時間も終わりに近づいてきました。 今日の確認を持ちまして、次回、第5回の委員会のところで答申の案を出すということで、それでもう一度検討をいただくという形になるかと思います。 事務局の方に確認しますが、答申案が準備されて、第5回の会議前に発送され、委員さんの手元に届くということでよろしいですか。 では、それをもって皆さんに事前に読んできていただいて、第5回委員会でその答申案についての議論をするという流れになるということです。 そして、8月の第6回委員会ではその議論を踏まえた最終案というものを確定させるという流れになります。 それでは、色々ご意見いただきましてありがとうございます。これから答申案が出されると思います。今日は、非常にソフト面と言いましょうか、そういう議論も出ましたので、その辺がうまく盛り込めるようなご意見を出していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
委員6	答申案を検討する際の参考にしたいのでお聞きしますが、地区の検討委員会のメンバーはどのような方が想定されるのでしょうか。
事務局	想定としては、地区別検討委員会のメンバーとしては、本委員会のように区長・副区長さん、PTA会長さん、学校長などその地区の方から選出することが考えられます。そこに学識経験者を入れるということも想定されます。細かいところはまだ詰めていませんが、人数の規模は10名から15名程度がよいと個人的には考えておりますが、これから検討していくことになります。
委員6	地区別検討委員会を行う際に、基本的な考え方の中にすでにいくつか示されていますが、どのようなオプションが選択可能なのかここで検討したも

	のが実際の例として入っていないと放り出された感じになってしまうのではないのでしょうか。 適正規模については結構議論があったと思うのですが、配置については地区の検討委員会に出す時には、ここで検討したことが分かり、かつ推奨とまでは言いませんが、こういったものが考えられるというものを地区に合わせて検討してほしいという感じになっていると良いのではないかと思います。
事務局	本日、皆様からいただいたご意見は、本当にどれも素晴らしい意見ばかりで、地区委員会に残さない手は無いと思いました。 答申には、委員会で出された意見や地区別のアイデアなどが「検討の経緯」として必ず残ってきますので、それらは地区委員会のところでは参考として生きてくると考えています。 これまでにいただいたご意見を基に、委員長さんと何度かやり取りをさせていただきながら、細かいところを詰めていき、できるだけ早めに皆さんに一度お送りしてご意見を伺った上で、次回の会議に臨めれば良いと考えております。
議長（委員長）	では、次回は7月25日木曜日19時からということになります。よろしくお願いします。

4 諸連絡

- 第5回委員会 日時 令和6年7月25日（木）19:00～
会場 みどり市役所 教育庁舎 3階 第1会議室
内容 答申（案）の内容等の検討、修正等
- 第6回委員会 日時 令和6年8月28日（水）19:00～
会場 みどり市役所 教育庁舎 3階 第1会議室
内容 答申内容決定及び答申

6 閉会

副委員長 清田 敏治

予定していた時間も来ました。今日はそれぞれの立場で貴重な意見をいただきまして本当にありがとうございます。これを参考に次回もやっていきたいと思います。本当にお世話様でした。ご苦労様でした。

以上